

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	こもれびの陽だまりの中で、優しさ、思いやり、感謝の気持を忘れずに、喜びあふれた交流の輪を地域に築きます。		朝の申し送り時に、毎回理念を唱和するように努める。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の行事、催し等の情報収集を図り積極的に取り入れている。		優しさ思いやりの心を忘れずに、日々利用者に接する。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	コンビニ、交番、スーパー近隣の人々に、入居者の顔を覚えていただける様機会を多く持ち対応している。		イベントの回数を多く持つ様にすると共に、ボランティア等の参加をお願いする。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の機会を多く持ち、近隣の方や農家の方々と気軽に声を掛け合っている。		このままの良い関係を保ち、更に交流の輪を広げて行きたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り、イベント、老人会等の地域活動に積極的に参加している。	○	近隣の小、中学生にホームに気軽に立ち寄ってもらい、ふれあいの機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>老人会等の行事に参加し、利用者の持っている能力を発揮出来る様取り組んでいきたい。</p>	○	<p>。お手玉づくり、雑巾縫い等</p> <p>。切り干し大根作り、梅干作り等を行い近隣の人におすす分けしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>閉鎖的に成りがちな為近隣の方に理解して頂ける様に今後も取り組んで行く。</p>		<p>前回外部評価で指導を受けた、ドアのネームプレートを改善し、より自分の居室が分かり易くなった。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>家族、民生員等の意見を取り入れ、利用者サービスに生かしている。</p>		<p>好みに合った食事提供する様に心がけ、食する事への楽しみを持って頂きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>書類の提出時や相談、指導を受ける時には、電話、FAXなどではなく、直接出向く様にしている。</p>		<p>不明な事は、勝手に判断せず、出向いて、直接指導を受けるようにする。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>後見人制度を必要とし、希望される家族に対して活用出来る様支援している。</p>	○	<p>権利擁護に関する制度の勉強会を開き理解を深める。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>管理者、職員一体となり、小さな虐待も見逃さず、声を掛け合い防止に努めている。</p>	○	<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち理解を深めて行く様に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い理解納得を得ている。</p>	<p>契約、解約時、疑問点があれば、随時対応している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のクレームを受け入れ改善策を考え随時対応している。</p>	<p>意見、不満、苦情を言える様な雰囲気作りをしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月スタッフにより、こもれび通信で近況報告し、変化等があった場合には様子を知らせている。</p>	<p>金銭管理は、請求書、支払い明細書、領収書を毎月家族の元に郵送している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族訪問時、出来るだけ話し易い雰囲気作りを心がけ、意見、不満、要望等を聞く機会を設けている。</p>	<p>出された意見、要望等はカンファレンスで話し合い良い方向に反映させて行くようにしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティング時、職員の意見、要望等を聞く機会を設けている。</p>	<p>○ 勉強会、個人面談を月一回行い意見を聞くようにして行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態の変化に合わせた対応をしている。</p>	<p>入居者の変化、状態に合わせたスタッフの勤務調整をしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、ご家族はの信頼関係を築く為にも職員の定着に心がけている。</p>	<p>新しい食員に代わっても、入居者それぞれが、今迄どうりの対応をして行ける様に配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> <p>研修会議参加した職員がカンファレンスで報告し全職員が共有出来るようにしていきたい。</p>	○	研修会議への機会を設けさらに研修内容を報告する場を作って行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> <p>市内に連絡会があり、極力さんかし、学習会や交流を持つようにしている。</p>		こもれびでイベントを行う際、招待状やパンフレットを送付し、スタッフや利用者と共に参加して頂いている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> <p>昼食後45分づつ交代で休憩室で、休息を取る様にしている。</p>		ティータイム時、入居者と共に職員もゆったりと過ごしている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>運営者は月2、3回現場に来ており、職員の悩み要望等を聞くようにしている。</p>	○	職員の資格取得に向けた支援に取り組んで行きたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>相談があった場合、不安な事、求めている事を聞き、場合によっては体験入居をおすすめしている。</p>		相談の際は、家族の思いを受け止め根気良く対応して、安心して頂く様にしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどこまで対応出来るか話し合いをしている。</p>		今迄のサービス利用状況等を聞いたり、又苦勞された事等じっくり聞いて次の段階につなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。		本人、家族の要望による訪問マッサージ、針灸等他のサービスを受け入れている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらい、安心感を持ってもらうようにしている。		見学や遊びに来てもらい、昼食を取って頂く、昼食サービスを実施している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の残存機能を活かし、協働しながら食事作りをしたり、暮らしの知恵等を頂いている。		入居者から、疲れていない?体は大丈夫、無理しないで気おつけてね等の励ましの言葉を掛けてもらっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子等を詳しくお伝えすると共に職員の思いも伝えている。		事細かに家族と連絡を取り、情報共有に努め家族と同じ思いで支援していると言うことをお伝えしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の希望を聞き、外出や外泊をし家族と一緒に過ごす事を勧めている。		本人の家族への思いを受け止めて、こもれび通信や行事に家族をお誘いしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問する事はあるが、入居者が出向くことは無い。	○	地域に暮らす馴染みの知人の家に遊びに行くことが出来るように支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	普段の生活の中で、関わりを多く持ち利用者同士の関係が円滑に成るように働きかけている。		個別に話を聞く機会を多く持ち利用者同士の関係がうまくいくように支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方にも、行事のお誘いや、訪問し様子を伺っている。		気軽に訪問して頂けるように心掛けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と家族からだけでなく、その人の縁者など、多方面から情報を得るようにしている。		困難な場合は、日常のかかわりの中から少しずつ情報をえて、本人が何を求めているのか意向の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族関係者などから聞き取るようにしている。		入居後も折に触れ利用されていたケアマネージャーや訪問ヘルパー等から情報を伝えてもらえるよう努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを日常の関わりの中で行動や動作を感じ取り、本人の全体像を把握している。		本人の出来る力、解かる力を暮らしの中で発見していき、職員全員が、入居者を総合的に見る目を養っていきける様に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や誤家族には、訪問時や日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させる様にしている。アセスメントを含め職員全員で、意見交換やカンファレンスを行っている。		茶を飲みながら等普段の会話の中でご本人と介護計画の具体的な案をじっくりと話し合うようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間に応じた見直しを実施するのは基より、状態の変化に応じて終了する前であっても、検討見直しを行っている。		月に一回程度、ケア関係者の最新情報や、気づき、アイデアを集約し実情に即した介護計画であるか、見直しを行っていくよう取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日常の暮らしの様子や本人の言葉、排泄状況、食事、水分量のチェック等、身体的状況をきちんと記録している。		情報を共有しながら、個別の記録がケアの質を保っていく上での大切さを意識しながら、職員全体がキャッチした状況を記録し、介護計画の見直しに活かして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、通院や送迎を行っている。		医療連携体制を活かし、個々の状態に応じた医療相談を受けている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して地域で生活出来る様、民生委員と意見交換できる機会を設けている。		地域住民や近隣の知人などに働きかけ、ボランティアの参加を呼びかけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、外部のケアマネジャーと連携を図っている。		市町村の保健師による、感染症予防の講習会を開いて貰っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今迄困難事例や事業所内で解決できない問題は無かった。		今後、地域包括支援センターと連携を図り協働しながら支援につなげて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿い、適切な医療を受けている。		訪問診療を受け、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	提携している医療機関の医師により認知症について指示、助言を貰っている。	認知症に関する診断や治療を個々の状態に合わせ対処している。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	提携医療機関の看護師とは気軽に相談できる関係が出来ている。	○ 看護師の雇用を進めていきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	長期入院によるダメージを防ぐ為に医師と話し合いを持ち、早期退院に向け働きかけている。	本人の支援方法に関する情報を提出し、速やかな退院支援に結び付けている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期のあり方について、家族やかかりつけの医師と話し合いを行っている。	話し合いの結果を全職員で共有して行く様にしている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	家族と繰り返し話し合い、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医と共に入居者が安心して終末期をすごして行ける様取り組んでいる。	急変した場合、24時間たいせいで対応して頂けるようになっている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	他の事業所に移られた場合、ケアプランや支援状況を渡し、情報交換を行っている。	移り住む際には、注意が必要な点について、情報提供し、連携を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図る為に日々の言葉掛けや対応が配慮したものであるように徹底している。	記録等はプライバシーを損ねない様書類ケース(引き出し)に保管するよう徹底している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた働きかけをするようにして、職員側の押し付けにならないように注意している。	本人の嗜好にあわせ、飲み物や食べ物等自分で決める場面を作っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、時間に合わせるのではなく、その時の体調や、気持ちに配慮し出来るだけ柔軟に対応している。	入居者の一日の流れ(生活ペース)のマニュアルはあるが、個別的に支援を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る洋服を自分で選んだり、お化粧をしたり、本人の気持ちを大切にするように心がけている。	自己決定がしにくい入居者には職員と一緒に考えて、支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には入居者と相談しながらメニューを決めるようにしている、又入居者と職員と一緒に調理したり、片付けをしている。	一緒に畑で収穫した野菜を調理し、味わい、利用者、職員でテーブルを囲み、食する楽しみを味わっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	極力本人の好むおやつを用意し、提供するようにしている。	手作りのおやつを、入居者と共に作り、達成感を味わいながら食べている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく支援している。		オムツの使用回数を減らし、可能な限り、トイレで排泄出来る様支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月、木で行っている。 入浴拒否の人に対して、言葉掛け、対応の工夫を行なっている。		利用者の体調、都合等に合わせて、個別に対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を多くして、生活リズムを整える様にしている。		夜間は安心して眠れる様に夕方からは穏やかな気持ちで時間を過ごして頂く様に心掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの持っている力を発揮して貰えるように支援している(草むしり、洗濯物たたみ、食事作り、洗物)その都度感謝の気持ちを伝えている。		地域の行事参加等、入居者と相談しながら行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭管理が出来る人に限り、買い物に出かけた際、本人が自分の財布から支払える様支援している。		お金を持つことで、本人の安心感や満足感を味わって貰える様にしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら、ドライブ、買い物等に出かけている。		お花見、イベント等に参加をして季節感を味わっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者、家族と相談しながら実現に向けて言い出せる機会を作り出していく。	○	一泊旅行などの実現に向けて方策を検討して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の個人的な設置あるいは事業所の電話でやり取りができる様に支援している。		年賀状、暑中見舞い等手紙、はがきのやり取りができる様支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間制限はせず、何時でも気軽に訪問出来る様対応している。		ティータイム時、入居者と一緒におやつを召し上がったたり、レクレーションを楽しんだりして貰っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等で、ケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかを話し合っている。		職員の共通認識を更に徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人の安全を確保する為に、仮の施錠をして、危険を回避出来る様な対策を取っている。		入居者が、外出しそうな様子を察知したら声掛けをし、一緒に付いて行き見守り介助を行っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、入居者と同じ空間で過ごせる様に、記録等行いながら、さりげなく対応している。		日中は、フロアで職員が見守っている。 夜間は、居室が見通せる場所で休むなどして、安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況変化に応じて、注意が必要な物品は管理方法の取り決めをしている。	○	危険要因は何か、管理方法を再度確認してみる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング等で、一人ひとりの状態に応じ、予測される事故防止策について話し合っている。		職員の共通認識をはかり、日々の事故防止に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練(実技を含む)を消防署の協力を得て行っている。		こんごは、定期的に日時を決め応急手当の対応の訓練を行って行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の訓練は行っているが、地域の協力も得られる様な働きかけも行っていきたい。	○	職員だけではなく、入居者を交えた訓練を今後行って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて、家族訪問時に説明し話し合いを行っている。		行動範囲を広げることにより、リスクが高くなるものの、ご本人にとって、生活に自由な暮らしが出来むしる障害を少なくしている事を家族に説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行い、様子の変化を見逃さず対応する様にしている。		常に顔色や様子に注意し異常の早期発見に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は本人に手渡し、飲んだ事を確認している。	○	全職員が薬の内容を把握出来る様勉強会を行って行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬のみに頼らず、朝夕の食事に乳製品を毎日取り入れている。		レク等を通し、身体を動かす働きかけをしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、力に応じて見守り、介助を行っている。		拒否の強い人は、時間をずらしたり、スタッフを変え対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の記録、チェックを行っている。		食事摂取、水分摂取量が不足している時は、状況にあわせ、捕食や、飲み物に工夫を行い支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、使い捨てグローブの使用を行い、又利用者、職員共に予防注射を行っている。		感染症予防に対してのマニュアルがある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の確保を行い、あまり買い置きをしないようにしている。		夜勤帯で、調理器具、布巾、まな板の消毒等を行うよう徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りに、樹木や季節の花等を植え、玄関の出入り口は、広々とした空間を作っている。		玄関に、花や、植木を置き落ち着いた雰囲気を作っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が書いたり、作ったりしたものを張り出したり、季節に合わせた飾り物をしたりしている。		利用者が、台所に入り、お茶を入れたり、洗濯や、片付けをしてくれたりと、自由にしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで、テレビを見たり、新聞を読んだり、談笑したり思い思いに過ごしている。		和室の掘りごたつで、お茶を飲んだり、寝転んだりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に配慮し、危険が無いように居心地よく過ごして頂いている。		新しく購入するのではなく、なるべく本人が今迄利用していたものをお持ちいただくようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日1時間ぐらい居室の窓を開放し空気の入替えを行っている。		居室やリビングなどの温度調節をこまめに行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっており、車椅子や、杖歩行に支障がないように工夫している。		トイレや、廊下などに手すりを取り付けてあり、危険が無いように支援している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口に、ご自分の部屋が、解かりやすい様に工夫をしている。		毎日の月日や曜日、行事やその日に行う内容を掲示している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関からでも、ベランダからでも外に出られ、利用者が散歩したりしている。		ベランダには、車椅子でも出られるように、スロープを取り付け、又庭には、芝生を植え、椅子に腰掛けたりし、花や、畑を眺めたり楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の望む家庭的な食事の提供、自分達で育て、作った野菜、作物を、自分達で収穫し食べる事への喜びを味わっている。

静かな田園風景に囲まれ、地域住民と和合しながら穏やかに生活している。